

②③VRを活用した新たな防災啓発活動

～大切な命を守るために～

授賞機関 一般社団法人 中部地域づくり協会

キーワード VRシステム、シナリオモード、浸水体感モード、地域防災力の向上

全建賞審査委員会の評価ポイント

伊勢湾台風60年を契機として、水防災の啓発ツールにVRを活用した啓発活動。現実に近いシナリオモードと操作が難しい者に対する浸水体感モードの2種類を用意し、防災訓練・水防演習、シンポジウムにあわせて体感してもらっており、効果的・効率的に啓発を行っている点が評価された。

1. はじめに

伊勢湾台風等大規模水害における被災経験の風化や、気候変動の影響による水害の頻発・激甚化が懸念される中、平成30年7月豪雨では避難率の低さが問題視された。その現状を踏まえ、防災意識の向上や避難行動の改善を目的として、VR（仮想現実）を用いた防災啓発ツールを制作した。そのツールを活用して、逃げ遅れによる被害を最小化し、水害時の迅速な避難行動を促すなど、積極的な啓発活動を行っている。

2. 事業の概要

VRシステム「1 minute 1 second」^{ワン ミニット ワン セカンド}の制作にあたっては、災害未経験者が水害の恐ろしさを現実のように感じ、自分の事として捉えられる疑似体験とするため、ゲーム感覚でシナリオに沿って体験できる若年層向け「シナリオモード」と、浸水状況を体感する高齢者向け「浸水体感モード」のコンテンツを制作し、幅広い年齢層への対応を可能とした。特に、「シナリオモード」では、大雨特別警報発表にも関わらず避難を躊躇したことから浸水被害に遭う家族を想定し、家族の会話、緊急速報メールの受信、5つの避難行動の選択など様々な工夫を施すことにより、リアル感・没入感を重視した映像としており、短時間（約3～5分）で防災への関心を高める効果が期待できる。



浸水時のVR画面

3. 事業の成果

令和元年5月より、国土交通省を始め、中部管内の地方自治体や教育機関（名古屋大学減災連携研究センター等）など多様な主体と連携した活動を行っている。これまで、約2,000名の方がVRによる浸水被害を疑似体験した。体験者からは、「実際に浸水しているようで怖かった」「早く避難しないといけない」「避難のタイミングを予め決めておく必要がある」という声が聞かれた。

VR体験後には、大雨特別警報発表前の避難を促し、早期避難の重要性について説明を行うことに加え、体験者がVRの体験内容を話し合うことで、地域防災力の更なる向上の一助に繋がっている。

また、講演会や防災訓練などと組み合わせることで、防災知識の習得に体験が加わり、より効果的な啓発となっている。



VRによる浸水被害疑似体験の様子

4. おわりに

現在では、高校生など将来を担う若い世代に向けた防災意識の醸成を目的として、従来の防災講座にVRを取り入れ、「守られる側」から「守る側」へと向けた防災学習支援の取り組みを進めている。

受講した生徒たちからは、「これまで災害を経験したことがないので、VRを体験して水害の怖さがわかった」「早期避難により被害者を減らすことがあらためて実感できた」「自分が今できる防災対策を考えなくてはいけないと思った」などの感想が寄せられた。

この取り組みを次世代の避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）育成へ繋げていきたいと考えている。

大切な命を守るために、1分でも1秒でも早く安全な避難行動を目指して。